

第51回日本漢方交流会全国学術総会東京大会案内

大会テーマ「免疫と漢方」

日 時：平成30年11月3日（土）～4日（日）
 会 場：東京有明医療大学（江東区有明2-9-1）
 主 催：一般社団法人日本漢方交流会
 共 催：一般社団法人日本生薬学会
 開 催：東京漢方教育研究センター

11/3(土) 11:30	受付開始	
12:30~13:40	市民公開講座『薬膳を探る～毎日の食生活に生かす～』 タムラ薬局 田村哲彦	
13:40~14:00	開会の挨拶	
14:05~15:45	会員発表	発表15分質問5分（5名）
15:45~16:10	休 憩	
16:10~17:30	特別講演	『生薬新情報』 北里大学東洋医学総合研究所薬剤部 佐橋佳郎
17:30~	懇親会場へ送迎バスにて移動	
18:30~20:30	懇親会	ホテルサンルート有明

11/4(日) 8:40	受付開始	
9:20~9:50	第51回一般社団法人日本漢方交流会全国総会	
9:50~10:00	休 憩	
10:00~11:00	特別講演	『漢方での免疫とは・・・私見』 艸皇園 太田薬局 太田順康
11:00~11:20	休 憩	
11:20~12:30	特別講演	『免疫疾患と漢方』 大野クリニック院長 大野修嗣
12:30~13:20	昼食	
13:20~14:20	特別講演	『ニートの方々への漢方治療の可能性』 広中内科漢方専門クリニック 広中隆志
14:20~14:30	休 憩	
14:30~15:10	シンポジウム	『症例をもとにした免疫疾患』 <シンポジスト> 大野クリニック院長 大野修嗣 広中内科漢方専門クリニック 広中隆志 艸皇園 太田薬局 太田順康 <コーディネーター> 湯田康勝
15:10~15:20	休 憩	
15:20~16:20	会員発表（3名）	
16:20~	次年度開催地挨拶 閉会の挨拶	

* 本大会に出席された方は、（公財）日本薬剤師研修センターの漢方・生薬認定薬剤師制度における更新必須研修単位を取得出来ます。（1日のみの参加で3単位・2日間の参加で6単位）

問合わせ先：東京大会事務局：外山博視 TEL&FAX:046-256-3925 toyama0462@ybb.ne.jp

講演要旨

市民講座 薬膳を探る～毎日の食生活に生かす～

タムラ薬局 田村哲彦

漢方では食物であっても薬物であっても、口から入るものは全て、身体に対して何らかの作用を発揮すると考えます。バランスの良い食材は健康に、偏った食材は病気へと身体を導きます。体調に応じた食材選びや料理法を意識させるために「薬膳」という言葉が、近年中国で造られました。薬膳を実践するためには、漢方の高度な知識と料理の知識が必要であり、さらに「治未病」の観点が不可欠になります。

特別講演 生薬新情報

北里大学東洋医学総合研究所薬剤部 佐橋佳郎

- (1) 主な中国産生薬の 2003 年から 2017 年度までの輸入価格の動向
- (2) 新産地情報：蘇葉、生姜・乾姜、麦門冬、附子、大黃等
- (3) 中国国内で品質重視・管理徹底の生薬の出現：広東省深圳市に現れたチェーン化中医医院「和順堂」等を紹介する。

特別講演 漢方での免疫とは…私見

艸皇園 太田薬局 太田順康

漢方的には免疫とは何かを榮衛、五臓の氣、陽氣など外邪に立ち向かうものと考えて、症例を交えながら、免疫力の増強、減少について私なりの考えを述べます。妄言かもしれません。

特別講演 免疫疾患と漢方

大野クリニック 大野修嗣

膠原病は免疫異常から発症する代表的免疫疾患である。膠原病は病理学的には自己免疫疾患であり、臨床的には原因不明の炎症性疾患である。現在、遺伝子的解析等、原因解明が精力的に進んでいるが、今なお原因不明の全身性疾患と言わざるを得ない。1947 年に副腎皮質ステロイド薬の治療が始められ、予後の改善は見るべきものがあるが、治療方法が完結しているとは言い難い。

一方、漢方は西洋医学的な原因が不明な病態にも対応でき、膠原病に付随する様々な症状に対する治療方法をもち、さらにステロイドとの併用で効果を高め、副作用を防止する。膠原病治療に当って漢方が如何に働き、どのように役立つのかを実例を中心に考えてみたい。

特別講演 ニートの方々への漢方治療の可能性

広中内科漢方専門クリニック 広中隆志

「昨今当院の日常診療において、社会人は入社できない、学生は登校できない、いわゆるニートの方々が多くなってきている。これは現在のわが国の社会現象でもあり、このままこの傾向が続けば、本人、ご家族の不幸はもとより、国家の国力の低下も招きかねない。

この原因が、脳の神経細胞のある部分が元々欠損しているのか、成長期に発達しなかったのか、はたまた損傷を受けたか・・・で、それらの機能を回復させる力が人間に備わっているのか、そしてその回復をバックアップする処方があるのかを問うてみた。そこで「傷寒論」「金匱要略」を見渡し治療につながる可能性のある処方的分析し、漢方治療の可能性を探ってみた。」